

『教育情報』誌に刺激されて

三ツ井 富士夫

「にいがた県民教育研究所」（以下、教育研究所）が設立当初から会員となり、「教育情報」に接してきました。当時私は38才くらいでしたし、通信制高校から全日制普通高校へ転動して数年後の頃でしたので、教育現場で悪戦苦闘していました。当時、中学校や高校の多くの学校で、生徒の「荒れ」が問題になっていました。勤務校でも、生徒の荒れが目立ちました。背景に、「競争・選別教育」「詰め込み教育」の強化があったと思います。当時、現場の実践や困難などにとらわれ、日々のことで精一杯でした。

そんな中で、『教育情報』は、私にはとても新鮮で、勉強になりました。いろいろな教育に関する書物に触れる契機になりました。何よりも、広い視野で現場を見れるようになったことが、教師として成長をうながしてくれました。

一年生担任の時。夏休みにクラス生徒全員の家庭訪問に取り組んだのも、そんなときでした。保護者の目線、生徒の状況を知ることができました。教室では同じように見える生徒達も一人一人違う育ち方、違う状況にあることを身をもって実感することができました。教育研究所等を通して。小中学校の先生方や保護者、弁護士の方、大学の先生方等々と接することができ、広い視野と教育への自信を持つことができました。ことに、八木先生や事務局の本田先生や内山先生との交流は、本当に勉強になりましたし、生き方も学ばせて頂きました。小中学校、大学の先生方との交流は、教育実践に大きな力となりました。どういう姿勢、視点で子ども・生徒達に向かうかは、教育技術や方法論にとどまらず、教育内容を子ども・生徒達の子どもの生徒たちの心にどうひびかせるかに大きな影響を与えることも学びました。おーきなケーキを与えることも学びました。五十才代以降の私の教科指導の視点は、どうすれば生徒たちに学びたい意欲を持たせられるかになりました。学びたい意欲のきっかけは一人一人違うことをどうするかが課題でした。

いろいろありましたが、最後まで教師としての情熱

をなくさないで終えられた、一つの大きな力になった
教育研究所に今も心から感謝しております。

(みついふじお・新潟市)

私とにいがた県民教育研究所

三 輪 定 宣

にいがた県民教育研究所は、1984年12月2日の
創設以来40周年を迎えるとのこと。まことにおめでと
うございます。私も当初から八木三男先生を介して貴
研究所とはご縁があり、いろいろ学ばせていただきま
した。特に私が千葉大学に勤め、非常勤講師として東
京大学教育学部で教育財政学の授業を担当していた頃
(1983～1993年)、若い学生と並んで受講され
ていた白髪のお姿が鮮烈に蘇ります。千葉大学や拙宅
にもお立ち寄りいただきました。

また、2013年3月の千葉県知事選挙に立候補し

た際には、お嬢さんの八木絹さん主宰の戸倉書院に
『三輪定宣業績一覧―経歴・著作・記事・講演等―』
を刊行していただき、運動の大きな力となりました。
『にいがたの教育情報』に掲載いただいた拙稿は約
20点です。以下の通りです。『三輪定宣著作集』(全7
巻第1巻2022年7月、第6巻2024年9月、第7
巻未刊)に収録しました。ここにあらためてお礼を申
し上げるとともに、貴研究所のますますのご発展を衷
心より念願いたします。

『にいがたの教育情報』掲載の三輪論文。

- ① 「日本の教育運動における「にいがた県民教育研究
所」の役割と意義」(1990年1月、24号)
- ② 「教員派閥研究における記念碑的労作」(1992
年5月、31号)
- ③ 「教育財政セミナー」講義録「日本の教育危機をの
りこえる教育財政とは」(1996年11月、48号)
- ④ 「任期制で大学はよくなるか」(1997年6月、50
号)
- ⑤ 「教師はなぜ、キレるか―ヒューマンスケールの学
級・学校規模を問う」(1998年7月、54号)